

一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくるために  
～教室で困っている子が困らなくなるためにできること～

研究の背景

UDL(学びのユニバーサルデザイン)の視点で授業づくりを考えることを柱に

昨年度までの調査研究では、教室で困っている子が困らなくなるために環境調整や「授業のUD化」を進めるための視点を動画やチェックシートで紹介してきました。そして、教室の中の多様な子どもたちの学びを支えるためにさらなる授業改善の方策を模索していたところ、UDLの考え方に出会いました。

これまで私たちが進めてきた「授業のUD化」とは何が違うの?…「個別最適な学び」の方策につながりそう…考え方だけでは具体的な実践が見えてこない…など新たな問いが生まれてきました。

そこで、UDLの視点で授業づくりを考えることは、多様性を包み込む学びの環境をつくるための新たな方策につながるのではないかと考え、その具体について調査研究することとしました。

調査研究の内容

- ◆「多様性を包み込む」授業づくりの方策としてUDLについて調査研究し、研修講座に生かす。
- ◆実践校の視察を行い、具現化に向けてのポイントを整理し、受講者の実践に役立つ事例を収集する。

UDL(学びのユニバーサルデザイン)とは?

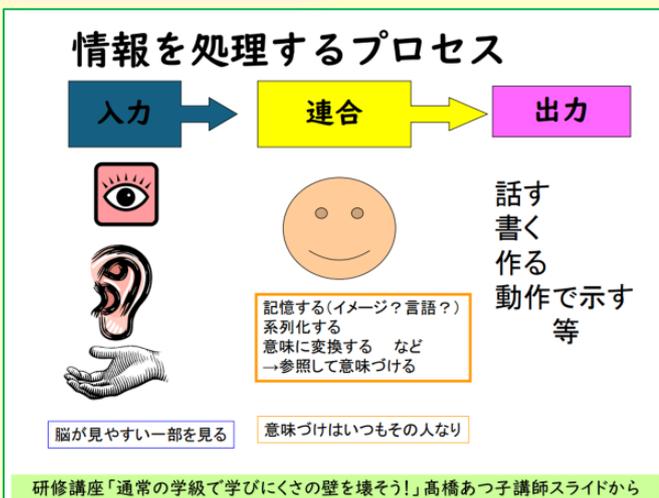
学びのエキスパートを育てることを目標とする 脳科学に基づいた考え方

- ・一斉指導にとらわれず、子どもの多様な特性に合う「オプション」を提供する
- ・「オプション」を子ども自身が選び、活用できるように支援する
- ・教師はファシリテーター役になる



…状況に応じて説明やデモンストレーション、アドバイス、フィードバックをして子どもの学習を促す

多様な認知の特性



オプション(例 漢字の覚え方)

複数の学び方を考えよう

漢字の覚え方	
	語呂合わせ(「木の上に立って見るのが親」など) 書き方を唱える学び方
	フラッシュカード イラストで覚える漢字
	漢字パズル 書き取り 粘土で漢字を作って触る

研修講座「通常の学級で学びにくさの壁を壊そう!」高橋あつ子講師スライドから

多様な特性に応じて 多様な方法を提供

# 視察校の実践から

UDL の実践校 (神奈川県) を視察しました

## ◆視察校の実践のポイント

- ・「安心できる 居心地のよい 一人一人に居場所がある 温かな環境づくりや指導・支援」を土台に 学級・学校づくりをしている
- ・対話的 主体的 かかわりを大切に UDL の視点から授業づくりに挑戦している

<実践校 ワークシートから>

2年生 算数「かけ算」の様子

さまざまな学び方で

目標も学び方も子どもたちが自分で選びます

本時の目標 「順番に」「ランダムに」を選べる

- |                       |
|-----------------------|
| ① 九九を見て、じゅん番に となえられる。 |
| ② しきを見て、じゅん番に となえられる。 |
| ③ しきを見て、ランダムに こたえられる。 |

速度やテンポも自在に調整

歌

動画

唱えて

歌って

確かめて

見て

聞いて

九九表

かけ算カード

答えて

かかわりながら

視察校から学んだ視点

子どもが学びの主体者になるために

- ・UDL 実践の土台として、安心して学んだり、表現したりできる温かな学級づくりがなされている
- ・学習目標(ルーブリック)を設け、学ぶ目的が明確になることで、意欲的な学びが成立している
- ・教師はクラスの子どもの実態に応じて学び方を選べるようにし、子どもたちが自分に合った学び方で学んでいる。特に ICT の教材を活用することで豊富な学習メニューが用意しやすい
- ・教師の一方的な教え込みではなく、子どもの選択や意欲を支えることで主体的な学びが成立している
- ・子ども自身が「〇〇の方法でやったら~できた」「〇〇が自分にはやりやすい」など、自分に合った学び方に気づき、別の機会にも活用できるようにふりかえりを支えることが大切



私たちがこれまでの実践の中で

すでに取り組んできたことも多くある!

是非ご活用ください

※上記の内容について 次年度の研修講座で学んでみませんか

令和7年度特別支援教育研修講座 早稲田大学 高橋あつ子講師をお招きし、UDLについて学びます  
「通常の学級で学びにくさの壁を壊そう!」(A:小学校 6月2日)(B:中学校 6月23日)

教職員研修会サポートにて、研修講座での学びを職場で共有したり、実践してみたいの悩みや改善点を整理、検討したりするお手伝いを専門主事が一緒に行うことも可能です。